

第69回 宇部市廃棄物減量等推進審議会議事録

・日時 令和5年10月27日(金) 14時00分から15時00分

・場所 ときわ湖水ホール ミーティングルーム

・出席委員

(会長)	樋口隆哉	新谷弘昌
	小島桂一	岸下明子
	熊切泉	田辺のぶか
(副会長)	中野陽一	山中直美
	大城真吾	阿部正和
	木原裕子	山本紀子
	乃木康子	

・欠席委員

伊藤哲夫	丹史志
田中康司	隅田典代
菅野弥生	

・事務局

市民環境部部長	黒瀬寛文
市民環境部次長	村岡和弘
廃棄物対策課長	中村隆行
廃棄物対策課副課長	谷崎日出夫
環境保全センター施設課長	正木弘
環境保全センター施設課副課長	植田昌吉
廃棄物対策課ごみ減量推進係長	川口修平
廃棄物対策課ごみ減量推進係主任	厚東庸介
廃棄物対策課ごみ減量推進係主任	西村純一

・資料

資料1 ペットボトル水平リサイクル可能性調査について
資料2 令和5年度(9月末)総括表

・次第・議事録

1 議題

- (1) ペットボトル水平リサイクル可能性調査について
- (2) その他

会長	では本日の議題（１）「ペットボトル水平リサイクル可能性調査について」、事務局から説明をお願いします。
事務局	【資料１】「ペットボトル水平リサイクル可能性調査について」説明。
委員	ペットボトルの出し方は、今後変更するのか。
事務局	分別を緩和することで不適物が多く混じれば手選別の効率も悪化し、設備の故障にもつながる可能性がある。また、現在の分別方法は市民に定着しているため、変更の予定はない。
会長	分別緩和により、事業者引き取り価格にも影響が出るということか。
事務局	お見込みのとおりである。
委員	【資料１】６ページ先進地事例調査の中の視察についての詳細は。
事務局	今年度は、佐賀市と長崎市を視察した。両市とも、石油資源削減やCO2削減等を目的にペットボトルの水平リサイクルを導入。また、事業者と連携したイベント出展等の実績を確認し、事業者と連携した環境教育やスポーツ振興連携など、今後の予定を確認した。昨年度視察した神戸市では、プロポーザル方式で事業者の選考をしていたため、その課題等を視察した。
委員	佐賀市と長崎市は具体的にどのようなことに取り組んでいるか。宇部市での取組をどのように考えているのか。
事務局	廃棄する衣類から精製したバイオエタノールで走るデロリアンを活用した環境イベントでの出展等である。今後も事業者と連携した取組を予定している。宇部市では、事業者と連携し、小学生を対象にペットボトルの循環を学ぶ環境学習や、宇部まつりへの出展など、市民の意識啓発に向けた取組を考えている。
委員	ペットボトル水平リサイクルについては、メリットが大きいと思うが、事業者はどのように選定する予定か。
事務局	現在、ペットボトル水平リサイクルの技術を保有する事業者は、全国で５事業者存在する。ペットボトル水平リサイクル事業に加え、循環型社会の構築に向けた取組を含めた仕様書を作成し、公平性の観点から公募型プロポーザル形式で事業者を選定したい。
委員	宇部市では、リサイクルされるペットボトルがどのような飲料商品になるか、わかりやすいといい。
事務局	これからはペットボトルを分別して出せば、またペットボトルとしてリサイクルされることを地元説明会等で周知することで、市民の意識啓発に繋がると考えている。
会長	先ほどの質問のように事業者の選定において重視した方がいい点、調査の上、判断した方がいいなど意見はあるか。
委員	ペットボトルをスーパーで回収していると思うが、キャップを回収しないスーパーもある。各会社の取り組みだが、（キャップを）どこでも同じように回収できるよう市から呼びかけは可能か。
事務局	スーパーの回収品目について、独自の取り組みとなるが、事業所訪問等の機会を確認していく。
会長	水平リサイクルとしてメカニカルリサイクル、ケミカルリサイクルそれぞれのメリットデメリットの説明をお願いします。

事務局	ペットボトル水平リサイクルには2種類技術があり、ケミカルリサイクルは、ペットボトルをフレーク化し、化学的に分解する方法で、半永久的なりサイクルが可能な反面、リサイクル工程が多いのでコストは高い。一方、メカニカルリサイクルは、高度な洗浄による異物の除去や高温下での除染など、物理的に処理する方法で、数回のリサイクルで劣化し、半永久的なりサイクルは困難であるが、大がかりな設備を必要としないので生産性は高くコストは低い。
会長	リサイクル手法を限定せず募集したところ、この度はケミカルリサイクルだったが、メカニカルリサイクルの宇部市としてのデータは取れてないことを踏まえ、事業者の選定方法を注視しなくてはいけない。
委員	ケミカルリサイクルは、新たな石油資源を使用しなくてもペットボトルが製造できるということか。
会長	製造工程で多少のロスはあるが、新たな石油資源を使用せずに半永久的なりサイクルが可能という理解でよい。
委員	宇部市としては、ペットボトルの水平リサイクルということを求めているのか。
事務局	お見込みのとおりである。今回の調査では、リサイクルの手法は指定してない。
委員	来年度より実施を目指すならば、メカニカルリサイクルの調査をしてから結論を出してはどうか。
事務局	本調査では、リサイクル手法を限定せずに事業者を募集した結果、メカニカルリサイクルの事業者から応募がない状況であったことから。改めて調査をするのは難しいと考えている。
委員	【資料1】2ページ目のフレーク化について説明してほしい。
事務局	物理的にペットボトルを粉砕・洗浄し乾燥させることであり、ペットボトルとして再生できるものや、ラベル、キャップや土砂などの異物を分離する。
会長	粉砕は粉末をイメージするが、実際は小さい欠片でペットボトルの細片化である。
事務局	本日欠席の委員から、意見が寄せられているので報告させていただく。 本調査受託者以外の事業者を選んで、当該調査と同等以上の成果を出せる事業者が存在するのか。存在しないのであれば、他事業者を選考する可能性について、検討する必要はあるのか。という意見である。
事務局	この意見に対して回答させていただく。現在、ペットボトル水平リサイクルの技術を保有する事業者は、全国で5事業者存在する。現状では、他事業者で本調査と同等以上の成果を期待できるか不明であるが、選定に当たっては、ペットボトル水平リサイクル事業に加え、循環型社会の構築に向けた取組を含めた仕様書を作成し、公平性の観点から公募型プロポーザル形式で事業者を選定したいと考えている。
会長	他に皆様から何か意見はあるか。
委員	特にない。
会長	審議会としては、ペットボトル水平リサイクル事業に関しては、本日の意見を踏まえ、市の方で進めていただきたいと思います。
会長	では、次に議題(2)「その他」、事務局から何かあるか。
事務局	前回の審議会で質問のあった学校給食の食べ残しの件について、学校給食課に確認したところ、食べ残しは年々増加傾向だが、これは、コロナ禍による休校や欠席児童

	等の増加や R4 年度から牛乳の紙パック化に伴う残渣増が要因と確認した。なお、食品残渣については、食品リサイクル法に従い、市内食品リサイクル事業者に引き渡し飼料化している。施設へ直接搬入していないことを確認した。
事務局	宇部市行財政改善委員会について報告。 同委員会において、会の目的や組織等の概要について説明。令和5年度の事務事業の見直しとして「ごみ減量推進事業」が選定された。委員会では関係課のヒアリングを経て、今後、市長へ意見書が提出される予定であることを報告した。
会長	皆様からの意見はあるか。
委員	特にない。
事務局	次に【資料2】「令和5年度(9月末)総括表」令和5年度上半期のごみ排出状況及びフードバンクポスト増設に伴う食品ロス削減啓発イベントの開催状況、子ども服・子育て関連グッズ回収ボックスの増設予定、段ボールコンポスト交付状況など、令和5年度上半期の主な取組について説明。
会長	段ボールコンポストの交付状況について、新たに取り組まれるユーザーは増加しているか。
事務局	昨年度、9月頃から、段ボールコンポスト交付申請書に新規ユーザーを把握する項目を追加している。今年度は約3割が新規ユーザーであり、世帯数についても増加している。
会長	皆様からの意見はあるか。
委員	特にない。
会長	それでは、以上で審議会を終了する。